

技法を駆使した 絵画や立体100点

崇城大美術学科展

崇城大美術学科アート・イラストレーションコースと3Dアートコースの3年生による作品展が18日、熊本市南区の市くまもと工芸会館で始まった。アナログからデジタルまで、さまざまな技法を駆使した絵画や立体など約100点が並ぶ。同館主催で無料。28日まで。

2コースは2022年度に新

設。今回の作品展に参加したのは1期生19人で、卒業制作を前に力試しをしようと作品づくりに向き合った。

山口実姫さんは、怪物やおばけをテーマにしたペン画と版画を出品。誰もが持つ内面の矛盾を表現している。木場堅人さんは「別れ」にまつわる複雑な心情をテーマにiPadで描いたイラストを並べた。清田到^{とう}惟さんは「3年目を迎え、それぞれ表現力も上がってきている。幅が広く、自由度の高い作品展をぜひ見てほしい」と話した。

(澤本麻里子)



幅広い絵画や立体が並ぶ崇城大美術学科の作品展
＝18日、熊本市南区